

令和5年度第1回大山崎町地域福祉計画・自殺対策計画推進委員会議事録

令和6年3月26日（火）14:00～  
大山崎町役場3階中会議室

次第

1. 開会
2. 傍聴許可
3. 審議

大山崎町地域福祉計画・自殺対策計画の進捗状況について

4. その他
5. 閉会

配布資料

第3期大山崎町地域福祉計画・自殺対策計画（計画の進捗状況）

議事

1. 開会

【委員長】

皆さんおそろいになりましたので、ただ今から令和5年度第1回大山崎町地域福祉計画・自殺対策計画推進委員会を開催いたします。

2. 傍聴許可

【委員長】傍聴を希望される方はいらっしゃいますでしょうか。

【事務局】

いらっしゃいません。

3. 審議

【委員長】

それでは、審議にはいります。次第の3 大山崎町地域福祉計画・自殺対策計画の進捗状況について事務局からご説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、ご説明いたします。

(第3期大山崎町地域福祉計画・自殺対策計画(計画の進捗状況)について説明)

**【委員長】**

事務局からの説明がございましたが、皆様方ご質問ご意見等ありましたらよろしくお願  
いします。

**【委員】**

地域等のプラットフォームづくりのあたりになるのかなと思いますが、子育てに関する  
団体の一つで私も参っておりますけれども、町内に幾つか、うちの他にもあることもご存  
じだと思いますので、その連携がもっとできたらなということをおっしゃっておられての  
計画があるとは思いますが、やっぱりなかなかコロナ禍もあって、できていないの  
だなんていうのは、ようよう存じております。

生涯学習課の方で、社会教育団体とご一緒にちょっとよせていただいたことは、そうい  
った交流会によせていただいたことは、あるのですけれども、実質的に本当に手をつなぎ  
合って連携し合っているところにはなかなかないかないという事実もあります。あと残念  
なことに、子育てサークルが1つ消滅しましたが、子育て世代の方が自主的にされていた  
サークルで、とても力のある方もおられたのですけれども、ちょっと残念だなとは思っ  
ているところです。ゆめほっぺさんのあたりで、一つ集約できる、ネットワークといいます  
か、一括して包括的に見ていただけたところがあつたりして、その参加者につないであ  
げられたりとかいうことがもっとできたら、よかったのかなと思うのですけれども。これ  
から、ゆめほっぺの役割も大きくなっていくのかなとは思ったりはしております。うち  
の方もなかなか厳しい状況にあり、京都府の方の交付金いただいて今年度までやっていま  
すが、次年度は無理かなと言われている状況ではあります。でも、小さくできるお金をあ  
まり使わずにできることだけはやっていきたいねと、うちのメンバーは小学生の保護者達  
ですけれども、地域の活動ということに意識を向けていけたらいいのかなと思っているの  
ですけれども。そんな中でやっぱり子供の権利とかをお伝えするいい機会、子育てのプログ  
ラムが、この京都府の交付金がなかったらできないというジレンマにも大変陥っていま  
して、次年度あたりは、私もかなり忙しくなってしまうので、助成金を取っていくこと  
がどこまでできるかということが不安を持っています。ちょっとお伝えさせていただき  
たいなと思って、すみません。

**【委員長】**

ありがとうございます。貴重なご意見かと思えます。

**【委員】**

繋がりがもっとできたら、マンパワーもそうですし、機運が高まっていったりとかするのかなど。

**【委員長】**

限られた人材というようなところもあると思いますが。

**【委員】**

ただ、町中全体で見ると結構繋がっているよねというのは見られるところはあります。民間さん同士で。

**【委員長】**

やっぱり見える化した方がいい。

**【委員】**

行政外では結構繋がっているというのが見えて、みんなが包み込まれているよ、住民さんが包み込まれているよという感じが受けられるかなど。

**【委員長】**

サポート体制、充実と言ったほうがいいでしょうか。そのあたりの部分に対して、継続をしていくために、地域のためにというところでの必要性というような、そういったご意見もあったかと思いますが。

**【委員】**

はい、そうですね。行政さんをお願いしたい、必要ですよというところで私たちは本当に必要とされているのかなど。

**【委員長】**

この2点ですけれどもいかがでしょうか、事務局の方で。

**【事務局】**

おっしゃっていただいたご意見も、もつともだと思って聞かせていただいていたいました。ネットワークづくりは、かねてからの課題で今に始まったことではなく、何かにつけてみんな繋がっていきよ、ネットワークを組んでみんな協力してやっていきよと、いろんな計画にそのようなことが書いてあるのです。ただ、なかなかそれができていないというのが実態ですので、今の民間レベルではそれなりに繋がっているとお話もお聞かせい

ただ、我々はその実態も十分把握ができてないという状況ですので、一番、我々が問題になると思うのは、今、事務局がいろいろと説明させていただいたのですが、まず役所内部がまだまだ縦割りすぎるところがあり、そこをどういうふうにしてやっていくのかということが、まず一番の課題だなというふうに思っています。

ゆめほっぺの活用というお話をいただいたのですが、委員よくご存じだと思うのですが、立ち上げたときは地域子育て支援拠点事業という形で始めさせていただきまして、その当時、今はちょっと仕組みが変わっていますが、「ひろば型」と「センター型」というのがあり、手軽にできる「ひろば型」から始めましょうと。ただ、いずれはセンター型に移行したいと。その時には今おっしゃっていただいたような地域の子育ての拠点として、いろんな団体さんと一緒につなぎながら、いろんなことをやっていきたいと思いますという、そういう理想を掲げてやったのですが、今なかなかそこにまだ至っていないということで、我々としても非常に大きな課題というのは本当に認識しています。

ただ、いずれにしても子育て支援分野でなく、高齢者介護の問題、それから障がい者の問題、いろんなことをひっくるめた包括的な支援の体制をどう作っていくかということに、今、我々重点的に視点を向けていますので、個別分野の専門性が高まっていますのでなかなかそこをつないでいってしまうと、またそこだけが独立していくところの懸念もありますので、何とかその分野横断的にも、全体丸ごと福祉の中でどう繋がっていくか、繋いでいけるかということは今、何とかできないかというのを考え始めているところですので、もうしばらく時間がかかるかもしれませんが、課題認識を持ちながら取り組んでいますので、応援していただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

#### 【委員】

この前、地域ケア会議に参加させていただいて、高齢者部門の方、専門職の方々がすごくいい関係を作って地域で活動されているというのが、ものすごくよく見えた。子育ても地域包括的にこれができたらいいなど。だから、子育て世代包括支援センターというものが制度としてあると思いますが、何とかできないかなど。その役割は半分でもされているのですか。

#### 【事務局】

そちらは、児童福祉係と健康増進係で共同して実施をするということになっておりまして、センター化するとか言われていますが、小さいところなので、それがどこまでできるのかというのは、今、検討中というところです。

#### 【委員】

地域ケア会議は毎月やっていて、一応専門職が集まってやっています、この前委員さんが来て下さったときには、地域の住民さんとか、民生委員さんとかも、一緒にグループ

ワークという形でさせていただいたのですが、地域ケア会議を通して、専門職の繋がりというのは、介護支援専門員連絡会というのも毎月やっているのので、ネットワークはできているのかなとは思っていますし、プロジェクトO（オー）という協議体もやっていて、そこで地域の方に来ていただいて、地域の課題は何だろうと。今、ベンチ、大山崎町は坂があるから、ベンチを作ったらどうかみたいな。そういうのもあって、地域の方が社協の方に足を運んで下さる機会が増えてきているので、高齢者の方だけしか私はわからないのですが、地域の方と専門職が顔見知りにもなる機会が、ふえてきているのかなというふうに思っています。

今、保健センターの保健師さんと一緒に訪問に行っているのですが、そこで、包括として、高齢者の仕事として、保健センターの保健師さんに行くことで、今後何かあったときに相談していただけるような仕組みが、できているのかなとは思っていて、今回、無理に言って、保健センターの保健師さんが訪問行かれる時について行かせて下さいという形でやっているのですが、その中で、「何か困った時があったら社協に行くわ」と言って下さった方もいらっしゃるって、「なごみの郷に行く」と1人言って下さったのです。私が訪問に行くと、すごくうれしくて、地域の方と顔の見える関係ができているのは有り難いかなというふうに思っています。

**【委員】**

大山崎町で自殺された方はいらっしゃらないのですか。

**【事務局】**

統計内容報告

**【委員】**

公民館はどうなっているのですか。子育てでも使って、高齢者でも使って、集う場所が足りてないですね。

**【事務局】**

熊本地震の後、ホールの耐震性が足りないということでホールを閉じさせていただいています。建物自体はかなりもう老朽化していますので、公民館の本館別館、保健センター、長寿苑を全部一体にした複合施設に生まれ変わるという形で建て替えようということで、この間ずっと計画を進めております。何とかその設計も第一段階の設計までは終わっているのですが、次に行くタイミングのところでなかなかその予算化が、議会との話の中でうまく進まないということでストップしてしまっているのが実態です。何とか早くやりたいという気持ちは当然我々行政も議会も同じ思いなのですが、どういう形で再構築するかというところの調整がついてないという段階です。

**【委員】**

アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都との連携は具体的にどういうことをされているのですか。

**【事務局】**

我々としても非常に期待はしています。オープン前の話し合いの中では、一般の施設に入っていて、そこに障がい者の方や、高齢者の雇用であったりとか、いろいろな団体、いろいろな分野との連携というのは、当然視野には入っているのですが、まだそこまで具体的には至っていません。

**【委員】**

保健所のほうからですが、自殺の関係のことでいうと、実は去年、こちらのホールでゲートキーパー研修をさせていただきまして、これは市町村で、自分のところで開催予定がなかったところがやりますという形で何ヶ所かやったのですが、大山崎町だけもの凄い数で受講者が多かったのですが、やはり関心があるのかなというのがございましたので、ここでできて良かったなとは思っています。自殺の強化月間の取り組みは、コロナ禍前までは保健所の方で管内まとめていろいろやっていたのですが、この間、市町村の方でもいろいろ取り組みされるようになってきたので、今回はそこまで大きなことを、管内まとめてということにはしてなかったのですが、町の方でも取り組まれているということですので。

**【委員長】**

どのような層が研修に来られているかわかるのですか。年齢的に、高齢者の方が多いですか。

**【委員】**

そうですね。若い方が多いことはなかったです。

**【委員】**

私的には繋がりというと、年齢が高くなっている地域と、子育てと、分かれてしまうところがあったりするので、地域の中で歩いて行ける距離で集えるところ、大きな公民館とかも必要だと思うのですが、そこまで行くというのがなかなか難しい。地域の中で交通機関がないので、孤立してしまうというのがあるから、その地域の中で集えるところというのも、年齢に関係なく集えるというところがあったらいいかと、地域の中では話しています。だから、国道から、分かれ隔てられたところに住んでいると、国道を渡るというのがネックになっていて、なかなかここへ来るとするのが難しい方も多し。バスも入ってこない。だから年齢が高くなる方が孤立してしまう傾向があるし、町内会から80歳以上に

なって抜ける方が多いから、子育て世代の方と集えるといったら、お盆とかでは集えるのですが、日々、地域に住んでいる高齢の方の集まる場所がないというのが、私の地域では難しいのかなと。1人だからもう死んでしまいたいとか鬱的になる人がいて、その話をし、また鬱に戻るかもしれないのですが、ここで話をしたらちょっと気持ちが良くなったとかいう方もいるので、私も仕事しているので月に1回しかおしゃべり会とかは開けないのですが、もっと参加してもらえそうな感じでできたらと。

だから、小さい子供さんがいたら、家の周りとかで遊んでいたら声をかけたりはできるのですが、年配になると家の中に閉じこもってしまうから、買い物のときに声をかけるとか、やはり、小さな集えるところから、大きなところに行っていたかかないと、なかなか大きなところに最初からというのは難しくなってくるから、小さい子のいる方も出かけられないと思うので、地域の中に集えるところが必要かなと思っています。

#### 【事務局】

今のご意見もよくいただくことはあるかなと思っています。ただ実際のお話をさせていただきますと町が、それぞれの地域に箱物をつくって、それを維持管理していくというのはこれも実際上もう無理だと思っています。ただ、そういうハード整備はできないにしても例えばソフト面で、ご承知だと思うのですが介護予防の関係でしたらそういう地域での何かの集まりのところで補助金を出させていただいたりということをしています。もう少し幅を広げて包括的に使いやすくするとか、実は企画の部門でそういう補助金を持っていたりもするのですが、なかなか周知も行き届いておりませんし、それが使い勝手のいい制度になっているかと言われたらなかなかそれも多分少ししんどいのだろうなと思いますので、ソフト面での支援になろうかと思いますが、何かできないかなというのは引き続き考えさせていただきたいなと思います。

#### 【委員】

一番最初に数字でできるだけ目標を掲げて欲しいと言っていたので、最後に、そういう形で結果が見えたらいいなと。今途中なので、しっかり数字で表してもらっているところもあるのですが、何かやっていますぐらいの書いているところでしたら、何をやっておられるのかと、その辺は、また詰めていただければいいかなと思っています。

#### 【委員長】

数字を表せられる部分と、両方含めて、今回中間ですので、最終のところでは委員がおっしゃるように次の計画へつなげるための結果として、そしてそれを踏まえて計画を立てられるようにつなげていければというふうに思いますが、事務局の方いかがでしょうか。

#### 【事務局】

もう全くおっしゃる通りで、我々やはり数値目標を設定してそこに向かってやっていくという、まだまだ慣れてない部分が正直ございます。ご覧いただいたらおわかりの通り、成果指標に掲げているものに対する回答が全部きちんと書いてあるかということもそんなこともない。しっかり掲げた目標に向かって数字で表していくということをもっと習慣づけていかないといけない。言うことはおっしゃる通りだと思います。ただいずれにしましても今期のこの計画、今年度から5年間の計画で、しかもこれは一時的に取り組むものではなくて継続的に取り組んでいくものですので、また次年度以降のご報告では数字で表せる部分をしっかりと表せていければと思いますのでよろしくをお願いします。

#### 【委員】

また見直しもされたらいいのかなと思うので、ここにとらわれて、何とかそれに持っていかうということも現実と合っているところと合っていないところが途中でわかった時に、戻ることも必要かなと思うので、お考えいただけたらいいかなと。

#### 【委員】

2点ほどあり、1つ目、子供が公園で遊んでいて、声がうるさいとかボール遊びの音がうるさいと言われるというあたりで、これは大変子供の権利侵害に当たるではないかということ。それについて環境課の方にお尋ねしたら、そういう苦情を聞いたから、看板をつけている。その看板の内容が、子供、サッカー少年、野球少年、子供を模した危険なボール遊び禁止というもので、これ子供にそこで遊ぶなと言っているようなものではないかなというように感じたりしたという話です。もう少し、子供の立場の方にも周囲の大人が寄せられないかなと。子供の育ちに必要な公園で、適切な遊び方をしている。だから、あまり目くじら立てないで欲しいと簡単に言えばそういうことですが、そういったことを、広報できないのかなと思ったりもします。私は子供寄りの目線で言っているからこうなってしまいますけれども、ただやはり、重要なことだなと感じています。

#### 【事務局】

委員さんからその話を伺っておりまして、その時も多分町の建設セクションの方から回答があったのかなと思うのですが、結局、町内の公園はみんな小規模な公園ですので、まとまっておもしろい体を使って、ボールを使って遊べるような公園というのが地域にはないと。唯一あるのは河川敷ですよという、そういうお話をさせていただいたと思うのですが、河川敷のようなところは、子供だけでどうやって行くのかと、そういう話になるのですが、結局、その地域で子供たちが公園で遊ぶことをどこまで許容できるかというのは、まさにその地域の問題かなというふうに思っていて、そこで地域の合意がとればそれは当然その公園で、ポツポツとOKになっていくところが広がっていくのだろうと思うのですけれども、なかなか町としてそこまで踏み切れていないのは確かに事実なのかなと

いうのは思いますので、私の立場で今ここでこうしますというのは言えないのですが、そういう問題提起というのは大事なと思いますので、また建設部門とも連携しながら、そこらの取り組みをちょっと考えていきたいと思います。

#### 【委員】

あともう1点です。町内会を脱会したいという、私と同じぐらいの世代がおられます。高齢者ではなくて、やはり仕事が多忙なのですということ、しかも大人が2人いても、片方の方が、もう1人の方があまり、役員仕事をさばくのが難しかったりということも理由があるようですが、役員ができないから脱会する問題というのは起こっていて、ただ、その方、町内会ですとか行政に対する理解がちょっと乏しいと思われるのが、大体何でも行政の仕事ではないかということ、こっちは納税をしいるという言い方をされるので、やはり、でもそれはちょっと違うかなと感じています。住民自治がないとお互いの横の繋がりで知っている人だけ知っていればいいということではなくて、まちぐるみで、即、何かをするではないけれども繋がりがあることが、特に災害時には必要なことだよということを、なかなか理解しがたい方も、この世代でもいると思っているのですが。町からの、その辺りの、どこかの月で広報誌に載せておられたようには思うのですが、自治会に入りませんかというような題材。なかなか効果が難しいのか、もっと頻繁にそういったところをどこかでPRしたほうがいいのかとか思ったり。何か施策を、お持ちかなと考えてらっしゃるだろうかと、思った次第ですがいかがですか。

#### 【委員長】

自治会の住民周知を含めての政策等ありましたら、ぜひお願いいたします。

#### 【事務局】

今のお話も町の中ですごく大きな課題になっていまして、今の町内会の実態というのは本当に悪循環に入っております。今おっしゃる通り若い方はなかなかその必要性がわからないので、そもそも入らない、入ってもすぐぬける。残っていくのは高齢の方ばかりになってきて、役がしんどい、だけどすぐ回ってくる。そうなるとすぐまたぬけていく。どんどん人が減っていくということで、10年ほど前までは加入率が7割をきるという危機感を持っていたのですが、今はもう5割をきっているだろうなという、直近の数字を持ってないのですが、おそらくもう5割をきっているのだろうなという状況になっています。我々としても当然そんな状況駄目だよねということで、この間いろいろな啓発はさせていただくのですが、自治会をつくって下さい、自治会に入らなければいけませんという強制力を持たせられませんので、あくまでも地域の皆様方の意思でやはり成り立つものですから、なかなか有効な手が打ててないということで、おっしゃっていただきましたように、昨今、大規模化している災害が、いざこの町で起きた時にどうするかというお話の中で、町内会

にあなたは入っているから助けましょう、あなたは入ってないから助けないでおきましょうと、そんなことありますか？そんなことないですよ、という話の流れで、自主防災組織の結成というのを今一生懸命仕掛けており、地域の繋がりというのが必要なのだというところをもう一度再認識していただくという取り組みをこの間10年以上やっているのですが、おかげさまで自主防災組織の組織率は少しずつ上向いてはきていますが、それが自治会の方に波及するかというところがそういう訳ではありませんので、難しいなと思っています。継続的に啓発するしかないかなと思っていますので、広報で特集記事も一時掲載させていただきましたが、このようなことも含めて、継続的に取り組んでいきたいなと。ただ、即効性がある、何か特効薬があるというものではないという状況なのはご理解いただければと思います。

#### 【委員】

町内会によっては、高齢者が抜けるのですが、町内会には入っていて、役員はしなくていいという、ほとんどそのような感じなのですが、入ってなければ、災害時に支援物資がもらえないから入っていると、そのような町内会が大山崎でもあるみたい。支援物資を個人でもらいに行くのであればもらえるかもしれないですが、町内会で配るときに、町内会に入っていないともらえないという話があるので、高齢者でも入っていると、そのような町内会があるように聞きましたけれど。

#### 【事務局】

町としてそういうことはございません。

#### 【委員長】

難しい問題です。町内会の組織率とか、先ほど出た老人クラブも含めて、地域のところでなくてはならない組織だと思いますので、なかなか特効薬がない中でどうしていくか、継続がやっぱり大事なかなというふうなところは思うのですが、いかがでしょうか。

#### 【委員】

そう思います。社協、会費とか共同募金とかって、自治会ベースでやっているところがやっぱり収入が大きいから、そこを考えたことあるかなとか、子供たちが福祉教育を受けているのは社協のおかげでとかいうことを、おそらくまだ知らないなということは、しょっちゅう感じる。社協もPRを。

#### 【委員長】

今おっしゃるように啓発をして、そして社協も総合相談窓口でございますし、そういったところで協力しながらやはり作りあげていくしかないかなというところかと思っています。

貴重なご意見ですので発信をしていただいて、発信しなければ多分、作り上げていくこともできないと思いますので。他いかがでしょうか。大体ご意見はいただいたということでよろしいでしょうか。それでは次のその他の方に進めさせていただきます。

その他ですが事務局の方から何かございますでしょうか。

#### **【事務局】**

現委員の方々の任期が令和6年8月11日までとなっております。来年度になりましたら、各団体様等から委員のご推薦をいただく予定にしておりますので、よろしく願いいたします。あと、来年度の推進委員会の開催が来年の2月か3月頃を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

#### **【委員長】**

委員の皆様方から何かございますでしょうか。よろしいですか。これで第1回地域福祉計画・自殺対策計画推進委員会を閉会いたします。皆様方、円滑なご協力ありがとうございました。